

おはようございます。
長崎大学人、河野茂です。

ガソリン代、高いですね。運転好きの私としては、学生時代の 1970 年代は、1 リットル 5 0 円代だったことを覚えています。

それから、第 1 次石油危機、第 2 次石油危機とあり、1 9 8 0 年代には、1 7 0 円を超えたと思います。2 0 0 0 年頃には下がり、1 0 0 円を切った時代もありました。

リーマンショックの前は、1 8 0 円以上になり、それから、コロナショックでは 1 2 0 円代まで下がりました。

そして、ご存じのようにウクライナ・ロシア間の戦争などの影響で一時 1 7 0 円を超えたと思います。

電気代も高い。大学の電気代金も昨年より 2 0 % 以上増えて頭が痛いところです。

特に、大学病院は、年間で 1 億円以上の値上がりがあり、経営に直結するので、中尾病院長といろいろ相談していますが、これは原油価格の推移によるもので我々ではどうしようもないところがありますが、

皆さん、ぜひ、節電を本気でやってもらいたいと思います。

最近、今年の 5 月に出版された『新しい世界の資源』（ダニエル・ヤーギン著。東洋経済）を読みました。非常に分厚い本で、専門的なものですから、詳細に読んだわけではありませんが、地政学や経済の問題は、すなわち資源をめぐる問題で、常に世界はその流れで動いていることがわかりました。

この本によるとロシアの欧州への天然ガス供給は、欧州の天然ガスの総消費量の 3 5 % を占めるそうです。

また、ウクライナとの間で資源をめぐる争いはずいぶん前からあったことがわかりました。いずれにしろ、エネルギーがなければ何もできない文明社会ですから、この資源をめぐる問題は、資源のない国の日本人は否応なしに意識することになります。

著者は、最終的には化石エネルギーからクリーンエネルギーの転換について未来を予想しています。

その中で、環境問題も論じ、二酸化炭素の排出ゼロを目指す方法として 3 つ挙げています。第 1 に、炭素回収。3 0 年後も実質的にガソリン車が消滅することはないので、二酸化炭素を吸収する植樹や直接回収施設（D A C）の施設を拡大すること。

第 2 に、水素。水素は宇宙で最もありふれた元素だからこれを利用する。今、最も注目されている分野だそうです。

第 3 には、バッテリー貯蔵技術。クリーンエネルギーを使う自動車などに使用する。

私は専門家ではありませんが、このような技術革新の一部分を担うことが、プラネタリーヘルスを掲げる本学の役割と思っています。

ぜひ、上記のようなことをなされている専門家の先生がいらっしゃいましたら、研究成果をお聞かせください。

応援したいと思います。

さて、大学にとっての＜資源＞とは、なんでしょうか？

それは、＜人＞です。みなさんです。それしかないと、私は思っています。

資源をめぐる国家間の戦争ではありませんが、＜人＞をめぐる大学間の競争はあります。

やはり、有望（これは成績がいいという意味ではありません）な教員を多く集めることが大学の存亡にかかわります。

新しい世界の資源地図≡新しい大学間の人材地図なのかもしれません。

本学も生き残るために、新しい発想で、新しい世界を切り拓いて行くことができる教員を常に探して、長崎に来てもらわなければなりません。

もちろん、育成することも一番重要ですが、事務の方も含め部署のリーダーの人たちは、常に＜有望な資源＞を探さなければなりません。

＜資源＞は、黙っていて湧いて出るものではないので、掘ったり、作ったりしなければなりません。

つまり、いつもアンテナを張り巡らせ、情報をかき集め、時には、西の果てから新幹線に乗って、出向いて行って＜人＞を探すことが大事だと思います。

繰り返しますが、本学の存亡は、＜資源＞である皆さん教職員にかかっています。

期待しております。

さて、この経済的視点から見た世界の今の動向や本学の立ち位置などは、経済学部ＯＢでもあり、岡三証券株式会社の代表取締役社長や常任顧問を歴任された田中 健一理事にコメントを頂きたいと思います。

ぜひ、みなさんからのメールをお待ちしております。

＜新しい長崎＞＜価格＞＜ガソリン＞＜電気代＞＜資源＞など、なんでもよろしいので、感想を気軽にメールください